

作成日：2009年12月17日

改訂日：2024年 1月26日

## 製品安全データシート

整理番号：M-501

## 1. 製品及び製造者情報

製品名 : ピタチュー大判 (粘着剤のみ)  
会社名 : 株式会社セハージャパン  
住所 : 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-4  
担当部門 : 営業部  
電話番号 : 03-3525-7081  
FAX番号 : 03-3525-7089  
緊急連絡先 : 同上  
推奨用途及び使用上の制限 : ネズミ捕りシート

## 2. 物質の特定

単一製品・混合物の区別 : 混合物  
化学名 : ポリブデン、ポリイソブチレン、エチレン・プロピデン・ブテン共重合化合物  
成分/官報公示整理番号 :

成分名 (別名)	CAS No.	含有量	官報公示整理番号 (化審法)
ポリブデン	9003-28-5	84~90%	6-774
ポリイソブチレン	9003-27-4	2~4%	6-774
エチレン・プロピデン・ブテン共重合化合物	25895-47-0	8~12%	6-1523

## 3. 危険有害性の分類

危険性 : 可燃性固体 (消防法：指定可燃物) である。  
有害性 : 人体への影響はほとんどない。

## 4. 応急処置

眼に入った場合 : 危険な物質ではないが、清浄な水で約15分間洗眼する。  
万一痛みが生じた場合は、医師の診断を受ける。  
洗眼の際、眼瞼を指でよく開いて、眼球、眼瞼の隅々まで水でよく行き渡るように洗う。  
皮膚に付着した場合 : 製品に触れた部分を布等で拭き取り、水または微温湯を流しながら洗浄する。  
万一外観に変化が生じた場合は、医師の診断を受ける。  
吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所へ移動する。  
不快感のある場合は、医師の診断を受ける。  
飲み込んだ場合 : 危険な物質ではないができるだけ吐き出し、水で口の中をよく洗う。  
不快感のある場合は、医師の診断を受ける。

## 5. 火災時の処置

消火方法 : 初期火災の場合、粉末、炭酸ガスなどを用いる。  
大規模火災の場合には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。  
棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。  
周辺火災の場合は、周囲の設備などに散水し冷却する。  
消火作業は風上から行い、特に密閉された場所で消火の作業に従事する者は、必ず自給式呼吸具を着用する。  
消火剤 : 二酸化炭素、泡、ドライケミカル、乾燥砂

---

## 6. 漏出時の措置

付近の着火源となるものは速やかに取り除く。作業の際必ず保護具を着用する。風下で作業をしない。  
少量の場合は、乾燥砂又はおがくず等に吸収させて、化学物質専用の場所で焼却又は廃棄処理する。  
多量の場合は、土砂等で流出を防止し、液の表面を泡で覆い、できるだけ空容器に回収する。

---

## 7. 取扱い上の注意

取扱い時 : 火気、静電気、衝撃火花など着火源の生じないように注意する。  
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、換気の良い場所で作業をする。  
漏洩を防止する。

保管 : 冷暗所に貯蔵。貯蔵タンクは全てアースし、スパークしない用具、設置を使用する。

---

## 8. ばく露防止措置

許容濃度 : OSHA、ACGIHへの記載なし。  
設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された設備、機器又は局所排気装置を使用する。  
保護具 : 呼吸用保護具、保護眼鏡、保護手袋を着用する。

---

## 9. 物理/化学的性質

外観等 : 無色透明の延糸性のある粘稠な液体、僅かな炭化水素臭  
密度 : 0.900 (15℃)  
蒸留範囲 : 200℃以上  
流動点 : 60℃以上  
溶解度 : 水に対し殆ど不溶。ヘキサン・トルエン等の有機溶剤に可溶。  
蒸気密度 : 1.0以上 (空気=1)

---

## 10. 危険性情報

引火点 : 195℃ (RC-21E)、255℃ (RC-21F)  
発火点 : 300℃以上  
空気中の爆発範囲 (容積) : 不明 (不揮発性なため、測定不能)  
安定性・反応性 : 熱、光に対し安定。着火物、強酸化剤を避ける。

---

## 11. 有害性情報

急性毒性 : マウス 経口 LD50 20.0g/kg以上  
刺激性 : 殆どなし  
がん原性 : IARC、NTP等による発がん性物質に指定されていない

---

## 12. 廃棄上の注意

廃棄する場合は、焼却によって行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。  
河川や下水道への流入、地下への浸透がないよう管理する。

---

## 13. 輸送上の注意

運搬は消防法他関係法規の定めるところによる。  
荷役作業場は火気厳禁とし、消火器を配置すると共に、作業中の標識をする。  
車輛には異常時のための応急処置に必要な消火器、保護具を備える。

---

## 14. 適用法令

消防法 : 指定可燃物 (可燃性固体)

## 15. その他

- 引用文献 : ACGIH : TLVs Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices For 1988-1989  
IARC : IARC Monographs on the Evaluations of Carcinogenic Risks to Humans, supplement 7 (1987)  
NTP : 4th Annual Report on Carcinogens Summary 1985
- 記載内容の取扱い : 記載された内容は、入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、記載のデータや危険、有害性の評価に関してはいかなる保証をなすものではありません。又、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。
- 記載された注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いの場合には、ご使用者の責任において、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。
- すべての化学物質には未知の危険性、有害性が存在するという認識で、開封から保管、廃棄に至るまで、細心の注意を払ってご使用ください。
- 本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。